

小説

富永虔一郎  
Kenichiro Tominaga

# 啄木と牧水

覚えず君が家に到る



小説 啄木と牧水

覚えず君が家に到る



9784865652703



1920093020008

ISBN978-4-86565-270-3

C0093 ¥2000E

言視舎

定価 (本体 2,000円+税)

渡水復渡水  
看花還看花  
春風江上路  
不覺到君家

生命の灯がまさに消えようとしている啄木。

救いなき悲恋に懊悩する牧水。

苦悩を抱えるふたりの間に交わされる友情。

その向こうに立ち現れる明治の青春群像。

啄木・牧水の生と死と愛を描く初の伝記小説

言視舎

富永虔一郎

言視舎

石川啄木と若山牧水——日本の近代文学を代表するふたりの天才は、明治の末年、放浪と漂泊の果てに東京の街頭で邂逅し、身を灼くような熱い友情で結ばれた。本書はその奇蹟的な出会いと別れを、豊富な資料と自在な想像力を駆使して、リアルに、そして感動的に描き出す。ここにはまさしく明治の青春と文学が息づいている。近代の詩歌を愛する読者は、以後、本書を抜きにして啄木と牧水を語ることは許されないだろう。郷原宏 (日本現代詩人会会長・文芸評論家)